

問題番号 AFA

時間50分 100点満点

中学一般入試問題

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

一

次の問に答えなさい。

問一 次の——線部の漢字の読みを答えなさい。

- ① なんて強情な性格だ
- ② 不安な面持ちで座っていた
- ③ 新手の商法を思いついた
- ④ 就任を固辞した有力政治家
- ⑤ 真理を見極める目を持つ
- ⑥ 代謝がよくなる食べ物
- ⑦ 楽しんでいただけたら本望です
- ⑧ 人の嫌がることを率先して行う
- ⑨ 戦後七十年の時を刻む
- ⑩ 利己的な考えに基づく

問二 次の——線部のカタカナを漢字にしなさい。

- ① 彼はジタともに認める好青年だ
- ② この実験ではヨウセイ反応が出た
- ③ やつとこの論争がシユウケツした
- ④ 被災者へのキフを募る
- ⑤ 責任もって生徒のことをジチするのが生徒会だ
- ⑥ ようやくハツガした種
- ⑦ 人のオウライが激しい道路
- ⑧ 弱者の声をダイベンするのが重要だ
- ⑨ 毎日の出来事をニッシンに書きとどめる
- ⑩ 体力をオンゾンして待つ

〔二〕「俺」は横浜から三重県にある神去村へ来て、「ヨキ」の家に寝泊まりをしながら林業を手伝うことになりました。次の文章を読み、後の間に答えなさい。(一)、や。なども一字とします)

清一さんが、「さて」とヘルメットをかぶった。

「雪起こしをする。このラインから谷に向かって横一列ずつ。はじめ！」

号令とともに山腹に散開する。巖さんと三郎じいさん、ヨキと清一さんが、二人一組で作業するらしい。俺はヨキと清一さんの組につくことになった。ノコは応援のつもりか、二つの組のあいだを駆けまわった。

あたりの杉の木は雪の重みに耐えかね、大きく谷側にしなまってしまっている。なかには、ほとんど斜面に接するほどしなっているものもあった。

「このままにしておくと、①いびつに生長してしまつて売り物にならないんだ」

と清一さんが説明した。「だから雪を払つて、幹がまっすぐになるよう固定する。山のうえから横一線に作業して、一列終わったら、その下に植わった一列に取りかかる。そうすると作業効率がいいからな」

若い木といつても、すでに三メートルは樹高がある。いったいどうやって雪を払い、まっすぐな状態に戻して固定するのかと思つてみると、藁を縫った縄を示された。

「これをまず、しなつた木の、枝の付け根に結びつける」

*ノコ：ヨキの飼っている犬

*縫った：ねじつて一本にすること

ヨキが清一さんから縄の一端を受け取り、まだ細い幹のなかほどの枝に縄を結んだ。そこで清一さんが、手にした縄のもう一端を、腰を落としてぐつと引く。杉は梢をもたげた。「ここで気をつけなきゃいけないのは」

と、清一さんは縄を引いた体勢のままと言った。「幹を垂直よりも山側へ引いては駄目だということだ。その角度で幹が固定されてしまうと、来年雪が積もつたときに、幹が折れてしまつたり、うまく雪起こしできなかつたりして、被害が大きくなる」

清一さんは引いた縄の一端を、灌木の根もとに結びつけた。杉は見る間に、まっすぐ斜面に立つ形に戻った。

「縄はそのうち腐つて落ちるから、このまま放つておいていい。ただし、化学繊維が含まれたロープの場合は、次の冬が来るまえに全部ほどいてまわる必要がある。雪が積もつてもしなることができず、木が折れるからな」

さあやってみろ、と言われて戸惑う。ヨキは次から次へと、斜面の杉に縄をかけてまわっている。ぐずぐずしていられない。清一さんの監督のもと、思いきつて縄を引いた。

重い。細い木だし、ヨキに比べると力があるようには見えない清一さんがやすやすと起こしていたのに、びくともしない。

「もつと腰を落として。斜面に背中が接するイメージで、全身で引くんだ」

「ふぬっ」

*梢…木の幹や枝の先

*灌木…低木のこと

と妙なかけ声が漏れ、やっと木が梢をもたげた。

「そのまま引いて。もうちよつとだ」

清一さんは、さきほど雪起こしした木の周囲を軽く踏みかためながら指示を寄越す。
「よし、いいぞ」

の声とともに、俺は力をこめたまま③しずすと姿勢を変え、灌木の根もとに縄を結びつけようとした。結ぶことに神経を取られ、腕の力が少し弱まった。

とたんに木はもとどおりしなつてしまい、俺は反動で斜面を転がり落ちた。

なにが起きたかわからず、死を覚悟した。ノコが吠えるのが遠く聞こえる。斜面の下に生えた木に腰がぶつかつてようやく、俺の回転は止まった。ぶつかつた木に積もっていた雪が、衝撃で頭から降り注ぐ。ぬかるんだ土にまみれ、俺の作業着はあつというまに真っ黒だ。

「おい、大丈夫か！」

清一さんがあわてて駆け寄ってくるのが見えた。ヨキは、俺が無様に腰をさすりながら身を起こすと、
「ぎやはははは」

とけたたましく笑つた。なにごとかと、少し離れた場所で作業していた巖さんと三郎じいさんまで、駆けつけてきたほどだ。

①「楽しそうやなあ、おい」

状況を見て取つて、三郎じいさんがうらやましそうに言つた。
恥ずかしさと痛みで半泣きになりながら、ほんとに帰りたい、と俺は思った。

春が近づいてから降る雪は湿つて重い。

夜、布団のなかにいても、山の木が折れる音が聞こえてくる。パキン、パキンと、呆気ないほど鋭く澄んだ音をこだまさせるんだ。

それを耳にすると、たまらない気持ちになる。いますぐ山へ飛んでいって、若木を雪起こししてやんなきゃ。そんな、居ても立つてもらえない気持ちになる。

②同時に、哀しくもなつてくる。だって山には、数えきれないほどの木が植林されている。俺のもたついた作業ぶりじゃ、雪の重みにひしゃげた若木をすべて起こすことなんて、何年かかつたつてできそうにない。

俺がしきりに寝返りを打っていると、トイレへ行くために部屋を横切るヨキは、
「なあなあ」

と必ず言う。「おまえがそわそわしたつて、はじまらんわな。はよ寝え」
本当にそのとおりだ。

*なあなあ…「ゆっくり行こう」や「まあ落ち着け」という意味の方言

雪の重みで折れてしまう木が出てくることも、林業をやっていたら受け入れなければならない。すべての木が計画どおりに育つわけがない。雪で折れる木も生き物。それを防ぐために精一杯、的確に手早く雪起こししていく人間も生き物。鳴いたり動いたりしない木もたしかに生きていて、それと長い年月かけて向きあうのがこの仕事なんだってことに、俺は神去に来て一年経って、ようやく気づきつつある。

でも最初は、やっぱりそれどころじゃなかった。

山から響く木の折れる音を聞いて、哀しくはなかった。だけどそれは、「木が折れてる。どうしよう」って哀しみじゃなくて、「いやだなあ、また雪起こしだ」という、③げっそりするような哀しみだった。

とにかく初日の一本目の木で、雪起こしに失敗したのが効いた。

斜面を派手に転げ落ち、ヨキに盛大に笑われた俺は、すっかり萎縮してしまった。転がったさきで岩に頭でも打ちついたら、死ぬかもしれない。足場の悪い斜面での作業がこわくてたまらず、へっぴり腰でしか縄を引けなかった。

俺にできる仕事なんかないんだ。そう思うと悔しかった。無理やりこんなところにつれてこられて、なんで恥をかかなきゃいけないんだ。やってられねえ、と腹が立った。でも実際のところ、なにもできないことが情けなかったんだ。悔しさも腹立たしさも、情けない自分から目をそらすために生まれてきた感情だ。

*萎縮：元気がなくなること

(三浦しをん『神去なあなあ日常』)

問一 く線部①②③の語句の意味としてもっともふさわしいものを選びなさい。

①「いびつに」

ア、ゆがんでいる様に

イ、見劣りがする様に

ウ、傷ついている様に

エ、たわんでいる様に

②「もたげた」

ア、うつむけた

イ、ゆさぶった

ウ、持ち上げた

エ、押し戻した

③「しずしずと」

ア、少しずつ

イ、恐る恐る

ウ、厳かに

エ、静かに

問二 「清一」はどのような人物として描かれていますか。もっともふさわしいものを選びなさい。

ア、利益と効率を優先して考える人間味がなく事務的な経営者のような人物。

イ、厳しくも丁寧ていねいに教える威厳と心優しさをあわせ持つ先生のような人物。

ウ、的確に指示を与え面倒見の良いリーダーシップのある親方おやかたのような人物。

エ、甘えを許さず時には周囲が見えなくなってしまう頑固父親がんこおやじのような人物。

問三 — 線部①について、このように言う「三郎じいさん」はどのような気持ちですか。もっともふさわしいものを選びなさい。

- ア、清一のおわてぶりとヨキが笑う理由で状況を理解し、「俺」の無事を安心して理解している。
- イ、失敗は初心者によくあることなので、自分にもあんな時があったと懐かしんでいる。
- ウ、アクシデントをきっかけに、ヨキと「俺」の関係が深まってゆくのを楽しんでいる。
- エ、「俺」の土にまみれて真つ黒な姿を見て、ヨキと同じようにおもしろがっている。

8

問四 「ヨキ」はどのような人物として描かれていますか。もっともふさわしいものを選びなさい。

- ア、無口で職人気質な人なので感情を多く表現することはないが、仕事を分かってきた「俺」を受け入れていく人物。
- イ、負けず嫌いで手取り足取り仕事を教えることもしないが、初心者の「俺」と支え合う必要性を感じていく人物。
- ウ、熱心で責任感が強いので背中で仕事を教えようとするが、なかなか成長しない「俺」に愛想を尽かしていく人物。
- エ、仕事を早く終わらせたいのでひたすら雪起こしに打ち込むが、気になる「俺」と張り合うようになっていく人物。

問五 — 線部②について、次のように「哀しさ」を説明しました。()に入る二字の熟語を答えなさい。

一年を経て自然の前では自分が()であることに対する「哀しみ」。

問六 — 線部③について、どのような自分に対しての「哀しみ」ですか。解答用紙にしたがって一五字以内で答えなさい。

9

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、出題の都合上、改めたところがあります。(、や。なども一字とします)

日本の小中高のカリキュラムは、大学入試をひとつのゴールとして設計されています。中学受験をしなくても、ほとんどの子どもが高校受験を経験しますし、大学受験も多くが経験します。つまり、大学に入るために、日本の子どもたちはゆるやかに長期間にわたって受験勉強を続けているわけです。

問題は、日本の入試が①知識偏重型であるという点です。そうした試験に対応するため、勉強も②必然的に「正解」をゴールとするものになります。

「は？ 正解を目指すのは当たり前じゃないか」、そう思われるのも無理はありません。ぼくたち親世代も、今の子ども同様、「正解」へ至る道順を覚える学習法しか教えられてこなかったのですから。しかし、①いきなり「正解」に飛びつこうとする態度は、クイズ大会ならいざ知らず、実社会では使い物になりません。

学問や実業の世界での「正解」は、受験勉強で選択肢のなかから選ぶような「正解」ではないことが多々あります。いきなり正解に飛びつくのではなく、正解を導く過程や、失敗したときの対処法こそが大切なのです。正しいかどうかはわからない、不確実性が高い場合にどのような判断をしたほうがよいのが、これも含めて考える力を養っていかねばなりません。

生きていくうえで「正解がない」状況は頻繁に発生します。むしろ重要な課題ほど正解がないことが多いのです。こ

*カリキュラム：教育内容を学習段階によって配置した学習計画

の「正解がない」状況というものは、いかなるものでしょうか。第一に、事実かどうか判断する材料に乏しく、正解かどうかわからない場合です。第二に、②価値判断に関わる問題については、判断する主体の数だけ正解があります。学問は常に進歩を続け、知識は常に更新され続けます。いわゆる事実として受け入れられている知識には、さまざまな前提が伴います。「正解だから正解」のではなく、さまざまな検証や反論を乗り越えてきた学説だからこそ、「現段階で」最大公約数的見解として「正解らしい」と受け取られているにすぎないのです。昨日まで正解だったものが、今日は違うということが起こります。

例えば国宝・源頼朝像。誰もが教科書で見たことのある京都神護寺所蔵の絵ですが、最近の教科書では「この肖像画は、源頼朝像と伝えられる」「伝源頼朝像」と保留つきの表記になっています。

実はこの絵に描かれた男性が頼朝であるかどうかは、以前から歴史学や美術史学の世界では疑義が出されていました。一九九〇年代になって画像解析技術が進んだこともあり、どうやらこの肖像画に描かれているのは源頼朝ではなく、足利尊氏の弟、足利直義ではないかというのが定説になりつつあります。

他にも、「足利尊氏像」とされていた肖像画が、どうも尊氏の家来である高師直がモデルではないかという説が優勢になり、単に「騎馬武者像」と呼ばれるようになったり、十七条憲法を制定した聖徳太子が、実は実在していなかったのではないかという説が出て物議を醸すなど、日本史だけに限ってみても、かつて「正解」として暗記させられていた知識の確かさが疑われるという事例は③枚挙にいとまがありません。

③これらの例から得られる教訓は、いわゆる源頼朝像を「正解」として覚えることよりも、それがなぜ正解でなくなつたのか、推論の過程を理解することこそが重要だということです。そもそも、教育の場で常識や正解として受け入れられている作法や知識のなかにも、学術的な根拠の怪しいものが含まれているかもしれないのです。また、学問には、その最先端に近づけば近づくほど、何が真理かは自明でなくなるという一面もあります。

このようななかで、問われるべきは「正解とされてきたものは何か」ではなく、「正解という前提が崩れてしまったときに、どのように対処すればよいのか」ということです。それはとても苦しい営みです。答えはすぐには出ず、試行錯誤の連続でしょう。

日本の教育は、ある意味で最低限必要な常識を入手するためには適しているのかもしれませんが、自分で深く物事を考えたり、世の森羅万象を理解するためにこれまでに存在しなかったものの見方をしたりするには、あまり適していないのではないかと感じることもよくあります。

しかも、部活や習い事、塾や宿題で、子どもたちには試行錯誤をする時間的・精神的な余裕はあまりありません。中入学入試に参加することを決断した段階で、組織的に詰め込む努力を強いられるという点は、あらかじめ織り込んでおいたほうがよいと思います。試行錯誤自体を目的にする必要はありませんが、試行錯誤を許す余裕がないと、もの考える楽しみや苦しみが理解できません。

「正解がない」の二つめ、価値判断による問題がまだ残っていました。

頼朝像のような、事実認定に関する問題については、正解か否かは、真か偽かの判断とその不確実性というかたちで処理できます。しかし善悪、美醜といった価値判断を含む問題については、何通りも正解が存在することになります。むしろ、なぜそのように考えるか、説明をしていく作業が重要になります。

そのために必要な知的基盤となるのが、自分の頭で「問う」「考える」「表現する」力です。頭から正解を覚え込もうとする態度は、問いかける問題の種類を最初から制限し、考える作業を放棄しているという点で大変に怠惰です。そして、ある意味で日本の教育は、こうした怠惰な態度を押しつけているともいえます。

(斉藤淳 『10歳から身につく問い、考え、表現する力 ぼくがイエール大で学び、教えたこと』)

問一　　〳〵線部①〳〵③の語句の意味としてもっともふさわしいものを選びなさい。

①「知識偏重型」

- ア、知識に正確性を加えた型
- イ、知識量は問題としない型
- ウ、知識の質を追い求める型
- エ、知識だけに価値を置く型

②「必然的に」

- ア、そうなるのが運命であるように
- イ、そうなるのが確実であるように
- ウ、そうなるのが課題であるように
- エ、そうなるのが正解であるように

③「枚挙にいとまがありません」

- ア、数え上げるときりがありません
- イ、これまでもまったくありません
- ウ、それほど見たことはありません
- エ、授業で扱うわけではありません

問二　　――線部①について、この態度にはどのような力が足りないのですか。五字以内で答えなさい。

問三　　――線部②を説明したものとしてみっともふさわしいものを選びなさい。

- ア、善悪や美醜といった価値判断は、真か偽かの判断で処理できないので、考える人の数だけ正解が存在する。
- イ、善悪や美醜といった価値判断は、判断の根拠が必ず不明確になるので、すべてを正解と見なすべきである。
- ウ、善悪や美醜といった価値判断は、選択肢から選ぶ性質のものではないので、正解は存在しないものである。
- エ、善悪や美醜といった価値判断は、生きていく上で重要な課題なので、正解や不正解という判断はできない。

問四　　――線部③にある「これらの例」とは何ですか。それをまとめている三十字程度の一文をこれ以前よりぬき出し、始めの五字を答えなさい。

問五 筆者が重要だと考えている学び方としてもっともふさわしいものを選びなさい。

ア、「森羅」は「樹木が限りなく茂り並ぶこと」で、「万象」は「すべての形あるもの」だ。だから、「森羅万象」とは「すべてのものや事象」ということになる。なるほど。

イ、一六〇〇年の「関ヶ原の戦い」に徳川家康が負けていたら、江戸幕府は開かれなかったし自分も存在していない可能性だってある。そう考えると歴史って面白いなあ。

ウ、長さ3 cmの磁石が3 cm離れたパチンコ玉を引き寄せたので、長さ6 cmの磁石なら6 cm離れたパチンコ玉を引き寄せるだろうと考えたが違っていた。なぜだろう。

エ、直方体の体積を求める公式は、「たて×よこ×高さ」だから、たてが3 cm、よこが6 cm、高さが4 cmの直方体の体積は「3 cm×6 cm×4 cm」で72 cm³となる。公式を覚えればできるんだ。

問六 ……線部について、二〇一五年の間にも正しいかどうかわからなくて判断に迷う、社会で大きく話題となった出来事がたくさんありました。そのような出来事を一つ答えなさい。

